

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

施設名：パブリカキッズラボ 中今泉

公開：令和7年4月20

この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所による自己評価です。

※評価における△は対応が不十分、もしくは事例がないもの

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		延べ面積70坪の戸建住宅、国の基準を大きく上回り、お子さまに伸び伸びと過ごしてもらえる施設環境を整えている。
	2	職員の配置数は適切である	5		昨年より人員体制強化を図り、保育士、児童指導員の他、理学療法士等も配置し、専門的な支援強化にも取り組んでいる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	3	戸建住宅を活用した施設で、バリアフリー対応ではない。そのため、施設内での事故等には十分に注意して支援にあたっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		毎日スタッフミーティングを実施。 引き続きPDCAの徹底から、より質の高いサービス提供に取組みたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		保護者様からの評価により、今後の取組み内容がより明確となった。今後、評価内容を受け改善点を抽出、取組んでいきたい。また、今後も定期的な保護者評価による、業務改善を進めて行く。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2	専門分野の研修について随時実施し、療育の向上に役立っている。 今後は、専門分野研修に加え、スタッフ1人ひとりのさらなる資質向上に向けた、様々な研修をおこなっていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		モニタリングの機会、日々のコミュニケーションにより、保護者ニーズを確認し支援計画に反映させている。また、その内容をスタッフ間で共有している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			アセスメントツール活用を進めたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		活動プログラムは、スタッフミーティング時に、協議し計画を立てている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		引き続き、新たなメニューを加えながら多彩な活動を心がけていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		学習、課題プログラムを組み、放課後では対応できない支援メニューを組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		一人ひとりの状況に応じて、個別療育と、集団活動を組み合わせた支援計画を作成、実行している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		■ 毎日のスタッフミーティングで役割分担、各々の子供たちの支援内容を打合せ、共通認識を持つようにしている。また、前日の支援終了による振り返りもその際に併せて実施している。 ■ 支援記録の徹底と、その活用により検証、改善に充てている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		■ 6カ月単位でのモニタリング、及び見直しを実施
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5		行っている

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している			現在、サービス担当者会議の開催がされていないため、参加の実績はないが、開催される場合は参加したい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5		年間行事、下校時間等については、各保護者からの情報提供により対応している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			医療的ケア児が通所していない。今後その必要に応じて体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	情報取得の方法も含めて積極的に取り組んでいきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3	提供するよう取組んでいく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		5	今後の取組み課題とする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		■連絡帳や、送迎時を活用して共通理解を図るよう心掛けている。 ■ペアレント・トレーニングと合わせて、保護者会の実施を検討する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時で説明。また、今後の運営において変更等が生じた場合は、都度書面、また必要に応じて口頭による連絡をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		■モニタリングの機会を活用し、面談、助言を行っているが、今後随時相談申し入れの機会も設け、保護者の皆様のサポート体制強化に取り組んでいく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5	保護者の会立上げは、今後保護者の意見を取り入れながら検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		当事業所では、「利用相談窓口」を設けて相談や苦情等について受け付け、その対応手順も整えています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	3	活動状況等は、個別に保護者と写真や連絡帳を通して行っているが、会報誌の発行は行っていない。今後は、Webを通して行事予定等の情報発信をしていく
	35	個人情報に十分注意している	5		個人情報の厳重な管理を心がけている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		保護者との積極的な情報伝達を心がけている。今後も、情報伝達の方法も含めてより意思疎通の図り方を検討していきたい。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5	近隣とのコミュニケーションを図っているが、事業所行事における参加促進は検討。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2	防災訓練等を定期的の実施している。防災対応等マニュアル化されたものの保護者への周知を図っていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		今後、外部研修や、事業所内でのスタッフ研修等を通して虐待防止についての認識を高めていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		■利用者の生命、身体保護のために緊急を要する場合、切迫性、非代替性、一時性であることを条件として行うことがあることをスタッフに認識させている。また、その場合記録を残すこととしている。保護者には契約書に記載、説明している。 ■対象児がいる場合は、事業所内での認識と共に個別支援計画に記載することとしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		保護者へのヒアリングにより把握し対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		事例が発生した場合、報告書への記録と共に、スタッフミーティング時に全員に共有するとともに、その防止策を協議している。